人生の扉 (1)

藤　村　健　夫

人生の持ち時間もあと10～20年くらいです。

24歳、家業の総務労務担当として働いていた時、父（社長）が急逝しました。時間が空くと、無常観・厭世観に襲われてしまうので、センター試験（旧共通一次試験、現共通テスト）の問題を考えることで、時間を使っていました。北野武が、フライデー襲撃事件後の謹慎中に中学入試問題を解いていて、それがフジテレビ『平成教育委員会』に結実したことは後に知りました。

36歳の時、刈羽郡総合病院の研修医で、木村道夫先生にご指導いただきました。ありがとうございました。木村先生から、「元日の日直は研修医がやることになっているから空けておくように。」と秋から言われていました。そして元日の日直を私が、当直を小児科研修医が担当しました。外科1st callも研修医でした。もちろん当時は指導医と一緒なんてことはありません。荒れ模様でした（天候じゃないですよ。）。神様は羽入修吾先生。光の中から降臨されました。今、当院の研修医は、素晴らしい環境で研修しています。研修医の皆さんが将来の夢を語っている姿はとても眩しいです。

48歳の時は、柏崎総合医療センターに帰ってきました。長谷川伸先生にご指導いただき、元気に勤務しています。ありがとうございます。今の腎内科二人体制を機能させているのは、全ての当番を二人で均等に分担するという哲学です。その当番表作りは、私に任されています。お互いの楽しみが、長谷川先生はゴルフで、私は野球、ラグビー観戦なので、休日希望が重ならず、うまく回っています。チーム医療のリーダーとしての医師は、スタッフが意欲的に働ける環境を作り、職場のパフォーマンスを上げていくことが大事な任務と考えています。

目の前の仕事に没頭していると56歳、父の亡くなった年齢に達した時は万感の思いでした。『まだまだ働き盛りじゃないの。なんでそんなに早く逝くの。』とお墓に語り掛けながら。

中学と高校、それぞれ還暦同期会準備が進んでいます。医学部ではない大学時代の友人達とは、年１回のクラス会で、昔日の思い出、年齢相応の懸案を語り合っています。医学生時代の年下の友人たちとは、年齢差を超えて一緒に学び一緒に遊び、卒業後も恩師（一般教育物理）を交えて食事会や温泉旅行など交流が続いています。

人生の残りの持ち時間をどのように使うか考え、2024年秋学期、慶應義塾大学文学部（通信教育課程）に学士入学しました。12年在籍可、楽しみです。

（1）　作詞 作曲 竹内まりや　2007年
I say it's fine to be 60
You say it's all right to be 70
And they say still good to be 80
But I'll maybe live over 90